99.6%

がん患者の周術期リハビリテーション実施率

測定値の定義・計算方法

Process

分子： 分母のうち、周術期リハビリテーションを実施した患者数

分母： がんで手術を施行した患者数（肺・胃・膵・肝・胆道・大腸癌）

活動のきっかけ

がんのリハビリテーションは、患者のQOLの改善を目的とする医療ケアであり、多職種にてがん患者特有の問題に対処するさまざまな専門職からなるチームとして提供される。術後の過剰な安静に伴う、各種合併症の発症を予防する観点からも、術後患者に対してリハビリテーションを提供する体制の構築が必要であり、他病院とのベンチマークを行い、実施体制の構築に向けて取り組む必要がある。

改善活動部門

- リハビリテーション部

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
<ul style="list-style-type: none"> 術後リハ実施率は99.6%となり、目標値の95%は達成した。 医師の診察から処方までの流れ、および、術後翌日からのリハ提供体制は構築できている。 	<ul style="list-style-type: none"> リハ介入の体制作りは構築されているが、介入の効果などについては課題を残している。 今後は、術後のせん妄や肺炎などの合併症発生率に対するリハ介入の効果、身体機能やADL機能の予後に対するリハ介入の影響もモニタリングする予定としている。